

緒 言

地質情報研究部門 沿岸域プロジェクトリーダー

中島 礼

産総研では、平成19年の3月に発生した能登半島地震と7月に発生した中越沖地震が海岸線に近い浅海の沿岸部で発生したことを重視し、沿岸域の地下地質情報を整備する目的の「沿岸域の地質・活断層調査（沿岸域プロジェクト）」を平成20年より開始しました。沿岸域には人口や産業インフラが集中し、港湾の埋立地などが位置しています。一方、海域が近いことから自然災害の影響も受けやすい地域です。活断層や地震などによる防災を考慮するだけでなく、沿岸域の調査は私たちの生活に密接した重要な意義があると考えています。私たちはこれまでに、能登半島北部、新潟、福岡、石狩低地帯南部、駿河湾北部、房総半島東部と調査を進め、とくに陸域から海域へと連続する活構造の分布や活動を明らかにするという成果を上げてきました。令和2年度には、相模湾北部沿岸域の調査結果を報告できる予定です。

平成29年度からは、名古屋市を中心とした中京エリアである伊勢湾・三河湾沿岸域の地質調査を開始しました。この地域には、愛知県から三重県まで広範囲において、人口密集地や工業地帯が立地しています。また、内陸域や海域においては活断層が多数分布しており、海陸にわたるシームレスな地質情報の整備が急務です。令和元年度（平成31年度）にこの地域の調査は完了し、現在は調査成果のとりまとめと公開の準備を行っているところです。

本報告には、令和元年度（平成31年度）に実施した伊勢湾・三河湾の海域及び陸域の調査・研究活動を主に報告するものです。本報告には、9件の研究成果の報告が収められています。海域の調査報告として、名古屋港から知多半島におけるSESによる音波探査（八木ほか）、伊勢湾南部の音波探査結果（佐藤ほか）、白子-野間断層を挟んで行った海上ボーリングの解析結果（天野ほか）、湾内堆積物の調査結果（清家・天野）、伊勢湾西岸沖における重力探査（大熊ほか）が掲載されています。陸域の報告としては、鈴鹿市におけるボーリングコア解析結果（佐藤ほか）、松阪市におけるボーリング調査（佐藤ほか）、知多半島における段丘調査（小松原）、四日市市における反射法物理探査（小松原ほか）があります。本報告は速報として調査終了直後に作成されたため、データの解析やそれに基づく解釈は十分とは言えませんが、本調査の現状を示し、沿岸域の地質学の進展と社会への研究成果の迅速な還元を進めるものです。

ご高覧いただき、調査・研究内容や成果についてご理解いただくとともに、忌憚のないご意見を賜りたくお願い申し上げます。